

## 財六甲台後援会だより (十五)

六甲台講堂修復のための1億円醸金と皆さまへのお願い

大学本部の方で六甲台講堂を修復して、国際会議も開催できるようなホールにし、大学の学術研究発表や大規模講演ないし講義室として使えるようにしたいという希望があることは以前のこの「六甲台後援会だより(十)」「凌霜」第375号)で申し上げておきました。その狙いもあって、ホームカミングデイは平成19年の第2回から講堂で式典を開催するようになりました。同20年の第3回の席上、野上学長は、同21年の第4回ホームカミングデイは修復なったこの講堂で行いますのでぜひご来場くださいと呼びかけられました。六甲台講堂の計画通りの修復には4億円強の資金が必要であります。本来なら文科省に施設修復の要請をして補助をしていただきたいところですが、教室などならともかく、講堂についてはその可能性はないようです。そこで大学としては、現在募金をしている「神戸大学基金」などの中から3億円弱は準備できるが、六甲台後援会の方から何とか1億円は支援していただけないかとのご相談がありました。当会としては、公益法人の改革問題とも関連して、かねてより資産運営についていろいろと検討をしている時でもありました。ちなみにも発表させていただいたように、法・経済・経営の3学部で成績優秀者9名、および前記3研究科に国際協力研究科を加えた4研究科の前期課程の成績優秀者8名の計17名それぞれに、1

年間の授業料相当額(60万円)を「凌霜賞」として授与することとし、また4研究科の後期課程学生については、その選考は各研究科に委ねることとして、年間1研究科に100万円ずつ「凌霜賞」を授与することにしました。これ以外にも、社会科学系3学部の相互履修についても支援することにし、これは現に着々と実施に移されておりますことは、皆さんご承知の通りです。

そこで、上記の学長の発言通り、本年秋季までに、講堂改修を完成させるとすれば当会は、1億円の醸金をするかどうかを遅くとも昨年未だに決定しておかねばなりません。そこで、11月28日午後、国際協力研究科会議室において臨時の理事会・評議員会を開催しました。席上、大学側の事情と計画については大学理事・安藤幹雄氏(昭45・法)より説明を受けた後、新野理事長が当会創設時に遡って後援会の趣旨を説明、さらに今回計画の支援について要請されまして。今回の臨時の会議には通常以上の多くの方々のご出席をいただきましたが、皆さんのお気持ちも同じであったのか、異議なく満場一致で本件は議決されました。

ところで、先に、大学としては3億円近く準備できるということでしたが、そのうちの6,500万円ほどは、神戸大学基金のうち、六甲台講堂修復目的のためとして醸金していただいた凌霜会員からの醸金額でした。従って今回、六甲台後援会からの1億円を加えますと、六甲台講堂修復のために凌霜会員が貢献できる総額は1億6,500万円ぐらいになります。しかし、よくお聞きしてみますと、計画通りに修復するためにはもう少し補充しなければならぬよう

です。そこで皆さんにお願いがあります。できれば、あと4,000万円ぐらいを目標にして凌霜会員の皆さんのご協賛をいただきますと、六甲台講堂修復総額の半分は六甲台講堂に最もゆかりの多かつた凌霜会員が負担できることになりました。

ところで、凌霜会員にとつて最もゆかりが多いと言えば、この講堂は神戸商業大学が上筒井から六甲台に移転以来、入学式・卒業式は言うまでもなくいろいろな行事が行われた記念すべき場所でした。敗戦後の一時期、進駐軍家族用のアーニー・パイル劇場として接收されましたが、返還後神戸大学になってからも当初は入学式などにも用いられていました。今では学生数も増加して講堂で入学式ということとは不可能になりましたが、耐震補強をしたうえ、椅子もノートがとれる台を引き出せるような形にし、冷暖房も完備すれば、国際会議も開催できるホールになることは間違いありません。おまけに、皆さんよく覚えていただいているように、日本の国立大学の講堂には2、3しかないと言われる誇るべき中山正實画伯の大壁画もある講堂です。この講堂修復の募金へのお願いは、新しい凌霜会理事長・高崎正弘氏および野上學長からも別途になされることになっていると聞いております。どうか金額のいかんを問わず、挙げてこの募金のお願いに応えてくださるようお願い申し上げます。

#### 久正氏ご逝去

平成19年に当会に対してご父子で1億円にのぼる多額のご寄付を頂戴した久正氏（昭和16年12月卒）が残念ながら昨年9月14日に亡

くなられました。ご葬儀はご本人のご希望でご家族の方々だけで済ましになり、10月27日に大阪のリーガロイヤル・ホテルで偲ぶ会が持たれました。偲ぶ会には新野理事長、田中康秀経済学研究所長と、この「久研究奨学基金」で米国シアトルのワシントン大学に短期留学の機会を与えられた経済学研究所の院生・村山悠君の3人が出席し、ご冥福をお祈りしてきました。「久研究奨学基金」については、「凌霜」誌374号（平成19年8月号）に写真入りでご報告しておりますので、ぜひもう一度ご覧いただきたいものです。偲ぶ会は正氏のご寄付9,900万円に100万円加えて計1億円にしていたいた久さんの女婿義裕氏（久金属工業株式会社取締役総務部長）が中心となって同社が催されたものでしたが、実に多くの方々のご臨席で進められました。そのことを皆さんにご報告するとともに、この機会に改めて皆さんとともにご冥福をお祈り申し上げます。

#### 今月号でのご寄付のご報告

誠にありがたいことに、前号以降、また六甲台後援会に次の5氏から、ご寄付をいただきました。匿名希望者様（昭35・法）200万円、岡本修様（昭35・経済）10万円、山本卓司様（昭32・経営）100万円、金井孝憲様（昭38・経営）50万円、松岡三郎様（昭35・経済）10万円の計370万円です。これで平成16年からのお願いに応えてくださったご寄付総額は約1億8,842万円になります。ありがとうございました。

ただ、ご承知のように昨今の金融危機に始まる同時不況の進展です。米国の私立大学のように、その基金を商品投機やヘッジファンド、特にデリバティブや不動産などに投資して高利回りを確保していたところは大きな影響を受けています。わが国でも多くの私立大学で多額の損失を出したところもあります。為替レート変動や金融危機の展開の仕方によっては、当会運営のための予想利息総額は好況時のそれに比べてかなり減額されることが想像できます。どんな不況も永久ではありません。しかし、今迄も経験したように不況期間中は、運営総額の減少を覚悟しなければなりません。それもあってこの期間中こそ、凌霄会員の皆さまに本会運営強化のために、より強いご支援をお願いしたいものです。よろしくお願い申し上げます。ところで、いつもお願い申し上げます六甲台後援会へのご寄

### 第3回ホームカミングデイと神戸大学の未来

第3回の神戸大学ホームカミングデイが、9月27日に開催され、当日は全国から多くの卒業生や地域の人々が集い、秋晴れの中で賑やかに交流を深めることができました。

少しでも個人的な話をするをお許しいただきたい。海外の大学では、卒業生が年に一度、母校に集まり旧友との交流を温めると

付先につきましては従来通りしていただき、今回とくにお願ひしま

した「神戸大学基金」につきましては「講堂修復」とご指定の上、

別添の大学基金専用の振込用紙で、ご芳志をいただければ幸甚です。

◎銀行送金の場合（領収書送付が遅れないようにするため、必ず送金のことをご一報ください）

銀行名 三井住友銀行六甲支店

口座番号 普通預金口座 4069496

口座名義 財神戸大学六甲台後援会

◎郵便振替の場合（通信欄に卒業年次と出身学部をご記入ください）

口座番号 0098009116772

口座名義 財神戸大学六甲台後援会

財団法人神戸大学六甲台後援会事務局

法学研究科教授 齊 藤 彰

いう行事が以前から行われてきた。かつて1年間修士課程学生として留学したアバディーン大学（スコットランド）からは、今でも年に2回ほど立派なカラー印刷の冊子が届く。それと一緒に寄付金の呼びかけや大学グッズのカタログも送られてくる。冊子には大学ランキングで母校が何位に入ったとか、連合王国内の大学評価手続で